



第22話 親子ガチンコ運動会

コロナで学校行事がなくなり何かと寂しかった長女のクラスで、卒業式を目前に控えた3月、親子で運動会をしました。子どもチームと大人チームの対抗戦。玉入れは背の高い大人が勝ち、大玉転がしは小回りの利く子どもが勝ち、棒取りは力づくで大人の勝ち(笑)。最後のリレーは子どもが制し、子どもチームの優勝!

終わった後の大人たちはヨレヨレでしたが、

本気で頑張るってこんなに楽しいのかと、皆笑顔。娘も「6年間で一番面白い運動会だった!」とのことで、コロナに負けずに楽しい思い出が出来、よかったです。



ふざけた違反も多々ありましたが、PTA主催だからこその楽しい運動会でした。



ウクライナでの戦禍に目をとおう日々
国連の場でも対話の手立てはなく...
民間施設は攻撃してはいけない
今年の桜はいつになく長く咲きましたが
まだまだ平和から遠い春です

大塚愛 いっぽ通信
岡山県議会議員
大塚愛 県政レポート [第22号]
発行: 2022年4月(2022年2月議会報告)

【事務所】
〒700-0971
岡山市北区野田5-8-11
Tel:086-244-7721
Fax:086-244-7724
e-mail:info@midori-okayama.org
http://midori-okayama.org/
[自宅]
〒709-3122
岡山市北区建部町吉田321
携帯:070-5056-3808
e-mail:ai.raku@shokan.jp

大塚愛

県政レポート(2022年4月発行) [第22号]



いっぽ通信

P.02-03 児童虐待・子どもの心のケア

- P.01 二度とあの過ちを繰り返さない社会を願ひ
- P.02-03 おもな活動記録から「家庭教育応援条例に反対・遺伝子組換えナタネ」
- P.04 愛ちゃんがゆく! — 県議体験記 — / 日々のうごき (2022年1月~3月)



皆さま、こんにちは。
ウクライナの戦禍に胸が痛む日々の中、平和の大切さを考えます。

3月には東日本大震災から11年を迎え、議会質問に立ち冒頭で原発災害について述べました。

私は福島県浜通りの川内村で12年間暮らしていました。大地震が起きた11日の夜、原発の非常用電源が止まっていることを知り、我が家を後に避難を始めました。翌日に1号機の爆発が起きた時には、世界が音を立てて崩れていく

思いでした。自分の手で一から建てた我が家、田んぼや畑、川や山々。心の根を下ろして暮らしていた地に、大量の放射性物質が降り注ぐという出来事は、自分の一部が死んでしまったように感じました。

あれから11年。私が住んでいた川内村には多くの人が戻っていますが、東北の食卓に欠かせないキノコや山菜など山の幸はセシウムの数値が高いものも多く、子ども達とよく通った図書館や浜辺のある富岡町や双葉町には、立ち入ることが出来ない区域が広



3月9日の議会質問で、当事者の1人として原発災害について述べました。議場の皆さんがしんと耳を傾けて下さったことが印象的でした。あの日の想いを刻み、歩いていきたいと思ひます。

がり、あの日から時が止まったの多い列島に原発が並ぶ日本にも、当てはまることです。西から風が吹く日本において、も

かつて夢のエネルギーと呼ばれていた原子力発電の事故という人災です。ウクライナの原発への襲撃を受け、ゼレンスキー大統領は「原発が壊れたらヨーロッパはお終いだ」と訴えられましたが、その言葉は、地震



3月11日は「女たちのピースアクション」に参加しました。武力によらぬ解決を。

日々のうごき

2022年1月~3月

- 1.3 岡山朝日高校ラグビー部OB戦
- 1.5 おかやまNPOセンター石原代表と意見交換@ハッシュタグ
- 1.6 岡山市農林水産課長とのお話 @市役所
- 1.8 吉備中央町 互礼会 @さびプラザ
- 1.9 御津大野とんど準備
- 1.11 居場所カフェ @岡山御津 高校、緑と水の道の会議@絵図町公会堂、フラワーデモ@エキチカ広場
- 1.13 条例案の会議、インクルーシブ教育フォーラム@ビューアリティまきび
- 1.14 常任委員会(農林水産)、3.11への祈り実行委員会
- 1.15 御津大野とんど祭り、ヤングケアラーの講座online
- 1.16 「食の安全を守る人々」上映会 &山田正彦さんトーク
- 1.17 岡北将棋同好会@エブリイ津 高、安積遊歩さんと懇談
- 1.18 絶滅しそうな昆虫たち展@アスエコ
- 1.21 岡山市への要望書提出 @たんぼネットワーク
- 1.22 世界イベルメクチンデー記念大村博士講演会online
- 1.24 県政報告の動画収録
- 1.25 常任委員会、家庭教育応援条例案について懇談online
- 1.26 特別委員会(教育再生・子ども応援)、みどり岡山会議
- 1.27 種子条例についての会議@倉敷
- 1.28 建築士会中村陽二さんとのお話online

- 1.29 「生理はどのように語られてきたか」講演@さんかく岡山、気候変動のおかやま学online
- 1.30 学校給食についてのお話 @ ママエージェンツ
- 2.1 常任委員会、会派会議
- 2.3 菌ちゃん先生農業ワークショップ @吉備中央町豊野
- 2.5 Phenomena写真展 @奉還町4丁目ラウンジカド
- 2.10 虹とみどり議員研修会online、
- 2.12 加茂川ホリデイフォレスト、ワクチン後遺症のシンポジウムonline
- 2.13 草刈り@建部町吉田
- 2.14 岡山県障害者施策推進審議会傍聴、ジェンダー勉強会online、
- 2.15 常任委員会、児童虐待についての意見交換online
- 2.16 特別委員会、高校居場所カフェ
- 2.17 STOP性暴力の会、本田由紀さん講演会online
- 2.18 オーガニック給食についての集まり @総社市、JA岡山訪問
- 2.20 シェルターモモボランティア講座online
- 2.21 児童虐待とDVの研修 @さんかくナビ
- 2.22 2月議会開会、VSCO訪問
- 2.23 民間福作研究所の研修会online
- 2.25 代表質問(高原県議)
- 2.26 RACDA岡さんの地域交通勉強会、母と講演会 @エンパワメント堺online
- 2.27 CAREプログラム(室内昌子先生)研修会online
- 2.28 oniビジョン取材、居場所カフェ
- 3.1 ヤングケアラーのお話@竹内法律事務所

- 3.2~9 一般質問(9日に登壇)
- 3.6 和気町太田けいすけ事務所開き、七草摘み餅つきイベント@竹枝
- 3.7 緑と水の道の会議、「ワクチン後遺症」上映会
- 3.10 キウイ剪定+親子ガチンコ運動会@竹枝小学校
- 3.11 RNN東日本大震災慰霊祭@神道山、女性たちのピースアクション+フラワーデモ@岡山駅
- 3.12 「3.11から未来へ」主催@藤涼寺
- 3.14 特別委員会、旭東中学校で講演
- 3.15 常任委員会、DV防止サポートシステムにつなぐ会
- 3.16 居場所カフェのお話@岡山御津高校、「香害」についての県教委への要望書提出@グリーンコープ岡山
- 3.17 岡山県への要望書提出 @たんぼネットワーク
- 3.18 2月議会閉会、地域公共セミナー、立憲自治の会世話人会
- 3.19 福祉オンズおかやま人権福祉講座online
- 3.23 中国電力勉強会、ジェンダー講座@横田都志子さん
- 3.24 遺伝子組み換えナタネ調査@瀬戸町、Vネットおかやま理事会
- 3.25 山内若菜展「神々の草原」@ICOI
- 3.26 岡山市移住者交流会@市役所、真庭市の女性議員のお話@コットン古都夢
- 3.27 空き家リフォームのお手伝い@御津
- 3.28~29 福島県の親子さんを招く春休み保養プラン@関谷
- 3.29 福島原発おかもよ訴訟、山田正彦さんと種子条例の集會

2月議会一般質問から 子どもの命と心を守るために



「いっぽ通信Plus」
動画はこちら

児童虐待とDVについて

ドメスティックバイオレンス

Q. 目黒区などで起こった児童虐待死の事件をきっかけに、国はDV(ドメスティックバイオレンス)と児童虐待を関連づけて対応するよう法改正しました。特定非営利活動法人「全国女性シェルターネット」は、「DV家庭には虐待あり、虐待の陰にはDVあり」と声明を出し、DVと虐待をひとつながりのものと捉え、女性と子どもを連動して守る支援の必要性を訴えています。昨年厚労省から出されたガイドライン(「DV対応と児童虐待対応の連携強化のためのガイドライン」)では、DVや児童虐待の本質は、相手に対

する一方的な力の行使や支配にあると考え、注意深く評価することや、支配関係が生じている場合は家庭内の情報が得られにくい場合、介入を工夫することなどが重要だとしています。この点は、この度岡山市で起こった児童虐待のケースでも、まさに必要とされていた対応ではないかと感じます。県では、このような児童虐待とDVが併存することの危険性をどのように捉えていますか。
A [保健福祉部長]. DVは虐待から子どもを守る上での、大きなリスク要因であり、通告される事案の相当数にDVとの関連があるものと認識している。



DVを受けていると、口止めや恐怖から、母親も子どもも他人に相談できなくなってしまうため、児童虐待の支援でもそのような点に注意する必要があります。出典:川崎二三彦先生(子どもの虹情報研修センター長)



コロナ対策の舵取りを担ってこられた西嶋保健福祉部長との質疑。児童虐待の質問も相次ぎました。

Q. 母親がDV被害を否定する場合の一時保護解除の判断や支援について、その後の支援について、どのように対応されていますか。

A [保健福祉部長]. DV被害者が支援を拒む場合は、原則として子どもの一時保護は解除せず、DV被害者に対して支援を受けるよう説得するとともに、児童相談所(以下:児相)職員がDV支援機関に同行するなど、粘り強く対応している。

Q. 中央児相と女性相談所は同じ組織として連携されていますが、倉敷や津山の児相は離れています。女性相談所職員にケース検討に関わっていただいているかがですか?

A [保健福祉部長]. 親子の支援は児相だけで出来ないこともあると思うので、物理的に離れている倉敷や津山の児相も女性相談所と

連携を図っていかないといけない。具体的な方法を検討していきたい。

子どもの心のケア

Q. 子どもの時に虐待を受けるという体験は、深い心の傷となり、人とつながる力や自己肯定感が育まれにくくなるのが心配されます。また、子どもの頃の逆境的な体験は、体の不健全な発育、薬物への依存、うつや犯罪行為など、さまざまな形で影響を及ぼすと言われ、その子が大人になった際に、支配や暴力というトラウマティックな関係に陥ったり、子どもへの虐待を繰り返してしまう世代間連鎖も心配され、なるべく早い段階で適切な心のケアを受けられることが望まれます。

岡山県では、県精神科医療センターを中心とした子どもの心の診療ネットワーク事業を行い、心の傷を抱えた子どもに対するトラウマの専門的治療やセラピストの育成、PCIT(親子相互交流療法)、CAREなど親子関係を強化するプログラムなどを実施しております。PCITやCAREの普及や実践を増やしていくことで、子どもの心の問題を理解する人が増えたり、虐待経験のある親子

が関係回復のチャンスを得ることができると思いますが、これまでの実践と今後について教えてください。

A [保健福祉部長]. 中核拠点病院の県精神科医療センターに委託し、医師や臨床心理士などを対象にPCITのワークショップや、CAREの指導者の育成を行っており、今後も子どもへのトラウマケアに取り組む人材の育成に努めていきたい。

インクルーシブ教育

Q. 発達障がいなど特別な配慮を必要とする児童・生徒が安心して学び、夢を育み、能力を伸ばしていけるためには、特別支援学校ではない学校・園でも、障がいに対する理解を深めることが重要です。今年度は、特別支援学校の教員が、すべての県立高校を巡回訪問し、それぞれの高校で気になる生徒さんの相談にあたられたと聞いています。このことによって、それまでと比べてどのくらい高校での相談対応が増えましたか。またどのような効果がありましたか。

A [教育長]. 高校への支援回数は、昨年度7校34回だったが、今年度(12月末時点)は51校161回に増え、学習や生活の合理的配慮な

どの相談に応じた。複数回の訪問によって、個々の生徒に関する相談や研修講師依頼など具体的な相談が増え、高校の教職員が課題に気づき、改善していこうとする意識の高まりが多く的高校で見られるようになった。

Q. 障がいや特性のある生徒が高校でも能力を活かして学ぶためには、合理的配慮が必要とされる場合もあります。現在、高校の入試ではどのような合理的配慮が提供されていて、その方法はどのように決められていますか。

A [教育長]. 県立高校の入試では、障がいの状況に応じて別室対応や拡大鏡の持ち込みなどの配慮をしている。配慮の検討にあたっては、中学校の定期考査で配慮した実績や医師の診断書をもとに、実際の中学校での様子を視察するなどして、入試における公平性を考えた上で、中学校・本人・保護者とすり合わせをしながら、中学校の校長と県教委が相談して決定している。

岡山県立高等学校入学者選抜における特別な配慮について

- ・別室
- ・拡大鏡
- ・時間の延長
- ・用紙の拡大やルビふり
- ・ICTなど支援機器の活用
- ・面接の実施形態など



「家庭教育応援条例」に反対

@岡山県議会(3月18日)

昨年の春に自民党議員の有志から、「親になるための学び」を推進する条例案が出されました。格差やコロナ禍などで子育て家庭が様々な困難を抱える中、親の責任を強調することは、相談や支援に繋がりにくくなかえて逆効果。また、「親学」という特定の思想が導入されること

も心配され、パブリックコメントでは過去最多の意見が寄せられ、その7割が反対意見でした。「子ども家庭庁」の名称でも同様の議論がありましたが、伝統的な家庭観を重んずることは、多様性を否定し、支援が必要な人を孤立させ、子どもの権利を蔑ろにする恐れがあります。条例は一部修正されましたが、今後の運用に注意したいところです。今後の事業についてお気づきのことがあればお知らせください。

おもな「活動記録」から



条例案への反対を訴え、朝から多くの方が議会前に集まりましたが、自民・公明の賛成多数で可決に。

遺伝子組み換えナタネ調査

@瀬戸町(3月24日)

遺伝子組み換えのナタネが自生していないかと調べる活動に参加しました。これはグリーンコープ生協が全国各地で毎年行っている調査で、岡山県内でも

輸入ナタネが運ばれる港近くなどで、遺伝子組み換えのナタネの自生が発見されています。

この日は子どもさんを含む10数名が集まり、飼料会社の近くを歩いて調べたり、採取した菜の花を検査したりしましたが、結果はいずれも陰性でした。途中、飼料会社にも伺ってお話をお聞きしましたが、原材料はほとんどが輸入穀物で、遺伝子組み換えのものも多いただろうとのこと。牛や豚、鶏

などのエサが輸入に頼っているという現状に触れ、国産飼料がもっと自給できるようになればと皆さんと話し合いました。



↑毎年の検査結果はこちらからご覧いただけます。

